

2013/03/21

兼子 純

科研費基盤 A :

フィールドワーク方法論の体系化 ―データの取得・管理・分析・流通に関する研究―
2012 年度の研究報告

2012 年度の成果

□研究会での報告

日時：2012 年 9 月 20 日

題目：流通業における聞き取り調査 ～その研究倫理とマナー～

発表要旨：

フィールドワークへの関心・注目が高まる中で、本発表は流通業に対する発表者による経験を紹介し、聞き取り調査でのマナー及びフィールドワークにおける研究倫理の視点を考える。フィールドワークに関する先行研究や図書は、佐藤（1992）の研究に代表されるように多数の蓄積があり、方法論や概念については一定の体系化がなされている。これらの先行研究は、聞き取り調査の前のハウツー本としてではなく、調査者が自らの立ち位置や調査手法の確認をする際に有効である。調査者とインフォーマントとの関係を維持するには、共通認識や共感を得ること、使用する言語や用語の理解、スケジュールの一致が重要である。発表者のチェーンストアに対する調査経験（兼子 2000）から、聞き取り調査前後の注意点を紹介した。聞き取り時のマナーとして、調査中の柔軟な対応が重要であるとともに、フィールドワークにおける過度の体系化やマニュアル化を批判し、研究倫理の導入が必要とされている事例を紹介した。

□地球学類人文地理学・地誌学実験でのフィールドワーク実習の基礎

聞き取り調査・アンケート調査の実習（履修者 20 名）：

- ・2 回（2 時限×2）の準備，1 カ月半の調査期間，調査内容のプレゼン 1 回（12 月）
- ・対象者：人文・地誌・空間分野の大学院生，約 50 名
- ・5 グループに分けて，調査内容，目的，調査票の作成，アポ取り，調査，御礼，まとめなど
- ・調査結果のプレゼン（@総合 A110）
- ・レポートの提出（回覧）

結果：

- ・グループ調査の難しさ
- ・日程調整
- ・調査結果と実際のずれ（院生の登校時間など）

課題

- ・インフォーマントの確保
- ・現場経験
- ・個人情報の保護・管理

□大学院地誌学野外実験

飯田市をフィールドとした野外実習 →『地域研究年報 35』（所収論文 12）

中心部での土地利用調査 →須坂と同様にデータベース化

いくつかの課題

- ・調査票に沿った調査しかできない。
- ・カウンターパートとの関係
- ・調査時期

- ・交通手段（安全性）
- ・まとめを意識した調査
- ・データベースの活用 →地球学類人文地理学野外実験？

2013 年度の計画

□IGU Kyoto Regional Conference での発表

"Development of landuse map database in urban area: a case of fieldwork in University of Tsukuba"

→論文・原稿の英文化

□学類実験におけるフィールドワーク実習

カリキュラム改編に伴う実習順の変更

→3 学期制から 2 学期制（各 AB モジュールのみ）、3/4 限から 3/4/5 限（水）へ

春 AB 案

論文の構成と文献の検索

地域情報としての地図・空中写真

主題図と統計の基礎

土地利用調査の準備と GPS の利用

土地利用調査

聞き取り調査

アンケート調査

主題図によるプレゼンテーション

夏季休暇

人文地理学野外実験（大学院野外実験の成果を活用？）

秋 AB 案（上記野外実験の成果をもとに）

地図製図の基礎（3 回）

デジタルマッピング（3 回）

多変量解析, GIS（3 回）

東京巡検など

課題：

- ・参加人数
- ・人文地理学野外実験との連携
- ・新しい分析ツールやデバイスの活用

□大学院地誌学野外実験（佐久市）

- ・土地利用データベース作成の継続
- ・グループ調査の課題克服
- ・データベースの利活用

□大学院地域動態論（全 10 回，秋 A/B 担当：兼子，山下亜）

主体性を持って地域を調査し紹介する能力を養う。

具体的な目標：1 日巡検の企画・開催